

## ものづくりの楽しさを知ろう！

夏休みものづくり教室開催

地域の方々に講師を招き、普段なかなか触れる機会の少ない「ものづくり」への体験「夏休みものづくり教室」が開催されました。「昔なつかしおもちゃ作り教室(むしかご・かみでっぽう・竹とんぼ・風車)」「沖縄のお菓子作り教室(サーターアンダギー・ちんぴん)」「貝殻ペンダント教室」「ビーズ教室」「マカロンストラップ教室」「ホバークラフト教室」の6教室にたくさんのお子様達が参加し、自身手作りのオリジナル作品に大喜びしながら楽しく過ごしていました。



## 努力の成果を実感！夏休み水泳教室

夏休み水泳教室開催

8月10日～12日の3日間、B&Gプールにて町教育委員会主催「夏休み水泳教室」が開催されました。この教室は小学生を対象とし、午前は低学年の部、午後は高学年の部に分かれ、約30人の児童が練習に励みました。講師の真栄平翼氏と指導員が児童一人一人の泳力に応じたきめ細やかな指導を行い、水泳の基礎を体得させ、泳力の向上を図りました。

始めはまったく泳げなかった児童も、水に慣れ親しむことができるようになり、泳げる児童は更に上達するなど、参加者全員が努力の成果を実感しました。



## 佐賀市との中学生交流

第5回佐賀市・久米島町中学生交流会～夏の交流～

佐賀市の中学生16人が「第5回佐賀市・久米島町中学生交流会～夏の交流～」として、8月5日から3日間久米島町へ来島し、本町の中学生らと交流しました。

初日は佐賀市と縁のある字鳥島でハーリー体験をし、交流会では自分たちで作成したオリジナル名刺の交換やお互いの故郷紹介、レクなどを通して交流を深めました。2日目は、海洋深層水研究所の温度差発電を見学、ユイマール館で久米島紬コースターを作成したりしました。また、ハテの浜、比屋定バンタ、ミーフガー、おばけ坂や五枝の松など島内観光スポットを回り、久米島を存分に満喫。有意義な交流となりました。

次は12月に、久米島の交流生が冬の交流で佐賀市に訪問します。



## みどり丸遭難犠牲者追悼法要

8月17日、銭田公園のみどり丸犠牲者慰霊之碑の前にて、みどり丸遭難犠牲者追悼法要が行われ、訪れた関係者は、安らかにと手を合わせました。みどり丸は1963年8月17日に、那覇市泊港から久米島に向け出港し、那覇沖合の海上で大波をかぶり沈没しました。乗客の多くには久米島出身者もあり、事故では乗客112人が亡くなりました。

出席した大田町長は「私の住んでいた地域の方も犠牲となっており、大きな事故でした。若い世代の人の中にはこの事故を知らない人もいます。このような事故が二度と起こらないよう、また風化させないよう行政としても記録に残していきたい、訪れた皆様も記憶に留めてください」と話しました。



## 熊本地震義援金を贈呈

熊本地震チャリティーコンサート@久米島

7月22日に「熊本地震チャリティーコンサート@久米島」の比嘉直樹実行委員長が仲里庁舎を訪れ、熊本地震被災者支援の活用にご利用してもらおうと6月26日に開催された「熊本地震チャリティーコンサート@久米島」の収益金442,232円を大田町長に手渡しました。

チャリティーコンサートには約200人の方が会場に訪れ、比嘉実行委員長は「事務局の皆がサポートし、2ヶ月ぐらいで企画から実現することができた。多くの方が集まり、多くの催し物を皆が最後まで楽しんでいました。会場が一つになった」と話しました。寄付金は久米島町を通じて、日本赤十字へ寄付され、熊本地震の被災地へ届けられます。

## 水産業の活性化を目指して

水産物加工処理施設及び海業支援施設の竣工式

かねてから建設中の水産物加工処理施設及び海業支援施設がこのほど完成し、7月26日、関係者らが出席し、竣工式及び祝賀会が行われました。

同施設は、モズクを中心とした水産物の加工品を生産、販売することで、水産業の振興発展、漁家の経営安定と所得向上を図ります。さらに、観光産業と連携を強化し、相乗効果を創出していくことで、久米島町の水産業及び地域経済の活性化を図ることを目的としています。



## 久米島から学ぶ福祉

糸満市地域連携協議会主催フィールドワークin久米島

8月1日から4日間の日程で「糸満市地域連携協議会主催フィールドワークin久米島」が行われました。

沖縄水産高校総合学科福祉サービス系列の1年生から3年生の9人(引率2人)が、島内6事業所で実践を行いました。プログラムでは実践の他、朝ヨガ体験、手話サークルとの交流、城跡視察、海洋深層水研究所や球美の里の施設見学等を取り入れ、島の自然や産業、歴史に触れました。本取り組みは生徒自身が久米島視察に訪れ、町長表敬、各施設の見学、職員との交流を行い、児童、障がい者、高齢者の3分野の施設で実践を行いたいと計画を立て実現したものです。

3年生の上原圭哉君は「本島や本土と違う施設の良さが見れました。利用者さん、職員さんが本当の家族の様に接している姿を見て感動しました。本土から聞く沖縄の人は皆フレンドリーですよと、言われるのは本当に離島の事だと思いました。又、今回久米島に来て皆で協力しながらレクリエーションとかできたので本当に良かったです。ありがとうございました」と話しました。

